

地域を流れる清流で水辺の生き物に触れる川遊び体験が14日、内子町の小田川であり、内子高校小田分校の1年生18人と小田幼稚園の園児9人が伝統的なカジカ捕りなどを通じて交流を深めた。



20年近く続く交流行事で、サザエの貝殻や鎖などで作った道具を使う「カジカ押し」を体験。3班に分かれ、高校生は園児の安全を気に懸けながらサポートした。

カジカ捕り経験が70年近くになるという成田忠史さん(83)＝同町小田Ⅱが指導。子どもたちは「かじかさん、よいしょ、よいしょ」と元気よく声を出し、川底に道具をはわ

お
カジカ追って
せいりゅう こうりゅう
清流で交流

うちこ おだ がわ
内子高校小田分校生と地元園児



成田さん(左)の指導でカジカ捕りを体験する高校生と園児



貝殻などを組み合わせて作ったカジカ捕り用の道具

せながら下流から追
い込んだ。

この日は岸辺にカジカが寄っていたよう
で、触れた園児らは「か
わいい」と大喜び。
小田分校の野地岡みな
みさん(15)＝大阪府
出身Ⅱは「川遊びは
初めてで、魚の捕り
方も面白い。場所によ
って川の様子も違うと
分かり、小田の新し
い一面を知る機会にな
った」と満足そうだっ
た。

成田さんは「頑張っ
てくれたおかげで、た
くさん捕れました」と
笑顔で語り「小田川は
みんなのふるさと。大
切な自然をいつまでも
守ってほしい」と呼び
かけていた。

(山下直人)